東　輝

みどり市立大間々東中学校
学　校　通　信
令和５年７月４日　第７号

中学生らしく鋭く柔軟な感性で

６月８日（木）に少年の主張校内大会を開催しました。国語科の授業の中で全員が発表を行いましたが、それぞれの学年から代表２名が選ばれ、体育館のステージ上で発表してくれました。一人一人が中学生として感じていることを堂々と主張してくれましたが、審査の結果、２年生の塩野目紗季さんと３年生の小林心優さんが本校の代表として、みどり市大会に出場しました。

クラス	氏　名	演　　題
１－１	小林　優杏	偽りの自分
１－２	小倉　虹奈	これからの地球のために
２－２	塩野目紗季	考え、行動する
２－３	関川　瑠那	見えない繋がり
３－１	小林　心優	私だから、できることを
３－３	中村　　舞	自分らしく生きる秘訣

６月２４日（土）に行われたみどり市大会でも、市内各校の代表生徒が立派な態度で発表している姿が見られました。**塩野目紗季さんについては最優秀賞（市内で２名）を獲得し、みどり市の代表**となりました。次は、８月１９日（土）に桐生市で行われる東毛地区大会に参加する予定です。

学校評議員会を開催しました

６月１５日（木）に学校評議員会を開催しました。学校評議員とは、地域社会に開かれた学校づくりを推進する一つの手立てとして、地域住民の学校運営への参画の仕組みを制度的に位置付けたものであり、校長の求めに応じて、学校の教育目標や計画、地域との連携の進め方などの学校運営に関して意見を述べることが設置の趣旨です。

今年度の学校評議員は下表の方に委嘱しておりますが、生徒が授業を受ける様子も参観していただき、学校評価の結果についても報告しました。

また、学校教育目標や学校経営方針等について説明するとともに、学力向上対策、生徒指導、タブレットの活用、いじめ問題、部活動の地域移行、生徒と向き合う時間の確保など、多岐にわたる内容について情報提供し、ご意見をいただきました。

特に、裏面にある４点についてご意見をうかがいました。

次回は２月に開催予定となっておりますが、本会議の内容を踏まえ、引き続き、学校経営の充実を図って参りたいと思います。

	氏　　名	備　　考
1	福島　貞則	６区代表（区長）
2	渋谷　敬	７区代表（区長）
3	小野　勇	８区代表（区長）
4	清田　敏治	13区代表（区長）
5	齋藤　由起子	主任児童委員
6	明瀬　弘美	主任児童委員
7	竹澤　義博	民生委員
8	清水ゆくの	大間々地区婦人会長
9	竹内　敏彦	学識経験者
10	備海　　忍	ＰＴＡ会長

（裏面に続く）

諮問内容	学校評議員の意見
４０周年記念行事の在り方について	「提言Ｒ５」の趣旨なども踏まえながら、東輝祭のプログラムに織り交ぜる実施方法で構わないのではないか。学校に一任する。
「生徒心得」の改定について（靴、靴下、ウインドブレーカー）	「生徒心得」の「はじめに」の部分や、学校通信第４号にも趣旨が書かれているが、なぜこのような校則とするのかについて共通理解・合意形成することが肝要ではないか。
大間々祇園まつりへの参加の在り方について	コロナ禍で中断していたことを契機にするとともに、祭り自体の在り方が変化していることなども踏まえながら、引率・熱中症対策・事前事後指導等の地域との役割分担の在り方、他の参加団体の模索なども勘案し、実行委員会とも調整の上、改めて大東中としての参加の在り方について検討すべき時期がきているのではないか。
自転車通学について	自転車通学のメリットとデメリットを比較するなどしながら、開校以来徒歩通学としてきた経緯を踏まえ、今後も徒歩通学を継続する方向でよいのではないか。

通知表の押印廃止について

社会全体としての押印廃止の流れや校務の効率化等の観点から、これまで行ってきた通知表への押印を廃止することといたしました。

廃止するのは、表紙にあった「校長」「担任」「保護者」欄の押印です。修了証については押印してお渡しします。その他の様式の変更はありません。少しずつですが、「生徒と向き合う時間の確保」に向けた取組を推進していきたいと思いますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

市総体壮行会開催

６月３０日（金）に、総合体育大会やコンクール等に向けた壮行会を行いました。コロナが５類に移行したため４年ぶりに参集型での実施としましたが、それぞれの部が大会やコンクールに向けた熱い意気込みを発表してくれました。そして、生徒には、以下の激励をしました。

◆今までで最高の試合を！【ベスト・パフォーマンス】

最も悔いが残るのは、自分の実力やこれまでの練習の成果を発揮できないまま何となく大会が終わってしまうこと。結果の如何に拘わらず、最後の大会でベスト・パフォーマンスができるように！

◆大人になっても、ずっと心に残る大会に！【記録と記憶】

目標がはっきりしている部活動。そこに３年間、熱心に打ち込むことで得られるものは、思いのほか大きい。順位などの「記録」として残るものもあるが、場合によってはそれ以上に大切なのが「記憶」に残る大会にできるかどうか。特に３年生は、終わった後に「心の財産」として記憶に残るような大会にしてほしい。

◆これまで支えてくださった方への感謝を言葉や態度で！

保護者の方々や顧問の先生、運営や会場設営をしてくださる方々など、たくさんの方々の支えがあって、初めて大会が成り立つ。そんな気持ちを決して忘れないように。

◇心から応援してもらえる人に！

スポーツ界でよく聞かれる言葉の一つとして「人間力の向上なくして、競技力の向上なし」という言葉があります。普段の練習態度なども含めて、心の底から応援してもらえる人に、チームに。

※７月２日のソフトテニス部（団体）を皮切りに、既に夏季総体が始まっています。結果については追って掲載いたします。また、壮行会・夏季総体等の画像についても、ＨＰ・ポータルサイトにもアップする予定です。